

難聴児の早期支援充実のための連携体制構築事業

成果報告書

受託団体名
静岡県教育委員会

1. 事業の実績

(1) 事業の目的・目標

事業の目的
聴覚障害のある乳幼児の教育相談において、乳幼児期から就学までの切れ目ない医療、保健・福祉、教育の関係機関の効果的な連携・支援体制の構築と支援機能の向上を図る。
事業の目標
(1) 医療、保健・福祉、教育の関係機関の効果的な連携、支援体制を構築する。
(2) 医療機関等との連携を強化することにより、聴覚特別支援学校乳幼児教室の療育、支援機能を向上させる。
(3) 聴覚特別支援学校乳幼児教室担当者の資質の向上を図る。

(2) 研究協力機関・校の一覧

(ふりがな) 学校名	障害種	具体的な役割
ぬまづちようかくとくべつしえんがっこう 沼津 聴覚 特別支援学校	聴覚障害	乳幼児教育相談マネージャーの活用 関係機関との連絡体制の強化 専門家の活用
しずおかちようかくとくべつしえんがっこう 静岡 聴覚 特別支援学校	聴覚障害	〃
はままつちようかくとくべつしえんがっこう 浜松 聴覚 特別支援学校	聴覚障害	〃

(3) 取組内容

- ・県内の聴覚特別支援学校3校に乳幼児教育相談マネージャーを配置し、各聴覚特別支援学校で乳幼児教室の運営サポートや教育相談における保護者支援を行った。運営や相談を進める中で、乳幼児教室の担当教員に対して、個別の教育支援計画・指導計画作成の助言や日々の指導の振り返りなどを行った。
- ・通級指導教室や教育相談に来ている幼児児童の在籍する幼稚園、保育所、小学校へ、教育相談担当等による訪問を行った。
- ・「静岡県聴覚障害児を考える医療と保健福祉と教育の会」、「月例運営協議会」、「就学支援ワーキンググループ」等を通して、医療機関、保健・福祉、教育のそれぞれの役割や取組内容を各機関の関係者間で共通理解した。
- ・各聴覚特別支援学校とその所在地にある医療機関や乳幼児聴覚支援センター、そのサテライト等と、検査結果の共有や個別ケースの情報交換などを行った。各聴覚特別支援学校へ言語聴覚士を派遣し、教職員対象の研修会や保護者対象の講座等を連携して行った。

(4) 事業の成果

- ・乳幼児相談マネージャーが、乳幼児教室担当者と実態把握や個別の指導計画の作成、聴覚管理などの基礎的内容を共有し、指導に当たることができた。また、乳幼児の下校後に、乳幼児や保護者への関わり方や授業について振り返りを行い、授業改善につなげることができた。
- ・通級指導教室等の児童生徒等が在籍する園や学校を訪問し、実態把握や環境設定、支援等について、在籍校の担当教員に助言をしたり、日々の指導を行ううえでの悩みを聞いたりした。当教員が支援の改善や環境の整備をしたことにより、児童から「教員の話が聞こえやすい」、「友達も支援機器を使ってくれるようになった」という声も聞かれるようになった。
- ・協議会等に参加し協議を行う中で、新生児スクリーニング検査や就学時の支援など切れ目ない支援について、情報共有を図ることができた。
- ・各聴覚特別支援学校で言語聴覚士による授業参観や研修、保護者向けの子どもとの関わり方に関する講座等が行われた。聞こえの発達段階や理解の仕方、家庭環境など、様々な要素を考慮したあらかわの捉え方とそれに対する具体的な支援方法の提案があり、その後の支援につなげることができた。また、講座をとおし、保護者の子どもに対する関わりや声掛けが子どもに寄り添うようになってきている。

(5) 課題と今後の方策

- ・令和6年度も、3校全てに乳幼児相談マネージャーを配置する。
- ・乳幼児教室の担当教員の専門性の向上・継承が課題である。乳幼児相談マネージャーが、教育相談に参加し療育に関する支援・助言を行うことや、校内研修会やケース会議等の講師を務めることで教職員の専門性向上のための支援を行っていく。また、聴覚障害教育の要点を押さえられるよう、各校で作成した資料を共有していく。
- ・通級指導教室等の児童生徒等が在籍する園や学校の担任等への助言・アドバイスについては、センター的機能をより発揮し、組織的な対応を取れるようにしていく。
- ・乳幼児聴覚支援センターやサテライトの言語聴覚士と連携した、共同の教育相談の実施、保護者講座や教職員研修の講師依頼、連携体制の構築に向けた協議等に取り組んでいく。
- ・オーストラリアのシェパードセンターの協力を得て乳幼児聴覚支援センターが作成した支援プログラムについて、効果的な活用方法を学び試行していく。